



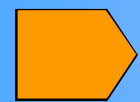
2021年3月期 第2四半期
決算補足資料

証券コード:6908

2020年11月5日

イリソ電子工業株式会社



 **I . 2021.3期 第2四半期連結決算概要**

II . 2021.3期 連結決算見通しと取り組み

1. 2021年3月期第2四半期 業績のポイント

新型コロナウイルス影響で前年同期比マイナスも、第1四半期を底として回復基調へ

- **売上**：新型コロナウイルス感染拡大による、世界的な生産活動停止や販売の低迷の影響を受け、車載市場を中心に前年同期比で減少。
ただし、第1四半期を底として回復傾向で、予想を約10億円上回り150億円へ。

※新型コロナウイルスによる影響：約52億円
(地域別内訳) 中国・アジア：約20億円、欧州：約12億円、
アメリカ：約12億円、日本：約8億円

- **営業利益**：売上減少に伴う操業度低下や金価格の高騰、8月からの急激な需要増に伴う在庫の減少などの影響があったものの、原価低減活動と徹底した支出削減により改善。△5億円の予想に対して、6.7億円改善し1.7億円で、黒字化。

【トピックス】

高速伝送対応コネクタの開発強化

- ・「25Gbps対応 Auto Lock™ FPC/FFCコネクタ」:11503シリーズのリリース
- ・「16Gbps対応電源用端子つき可動BtoBコネクタ」:10143シリーズのコンセプト発表

→イリソの強みである「Auto Lock™」「可動」の両技術に、高速伝送対応という付加価値を加えて、新たな接続ソリューションを提案しています。

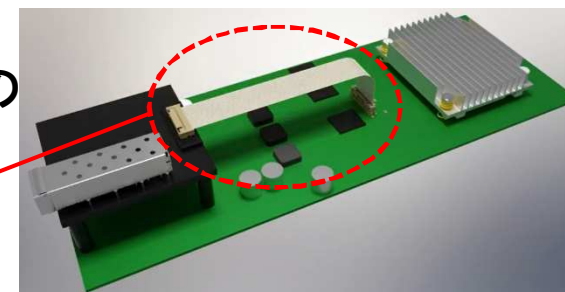
同時に、今後も5Gの実用化や、自動車の進化による情報量の増加を見据えて、さらなる高速伝送対応コネクタのラインナップを強化して参ります。



(10143シリーズ)



(11503シリーズ)



2. 2021年3月期第2四半期連結業績(前年同期比)



単位:百万円

	20.3期 第2四半期 累計	21.3期 第2四半期 累計	前年同期比
売上高	20,064	15,069	△4,994 75.1%
営業利益	2,381 (11.9%)	173 (1.2%)	△2,208 7.3%
経常利益	2,359 (11.8%)	76 (0.5%)	△2,283 3.3%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1,670 (8.3%)	8 (0.1%)	△1,662 0.5%
EPS	70.88円	0.35円	
為替レート 期中平均	ドル 108.99円 ユーロ 121.42円 元 15.75円	106.68円 121.36円 15.21円	△2.31円 △0.06円 △0.54円

3. 売上高詳細(市場別)



単位:百万円

		21.3期 第2四半期累計	前年同期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		11,958	70.0%	79.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・車載市場全体の2Q売上は1Q比70%増加と、急速に回復 ・特にセーフティ分野の2Q売上は1Q比約2倍増加と回復が鮮明に ・パワートレイン分野は環境対応車の普及に伴い、市況が悪い中でも堅調で、前年同期比約50%増加
区分	インフォテインメント	6,346	64.6%	42.1%	
	セーフティ	2,643	72.8%	17.5%	
	パワートレイン	1,096	146.3%	7.3%	
	その他	1,872	64.9%	12.4%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TVなど)		1,968	99.4%	13.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ向け、ゲーム機向が増加し、前年同期比ほぼ横ばい
インダストリアル (産業機器など)		1,142	114.7%	7.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ禍で日系企業が生産を増加したことから増加
合計		15,069	75.1%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・海外比率76.3%



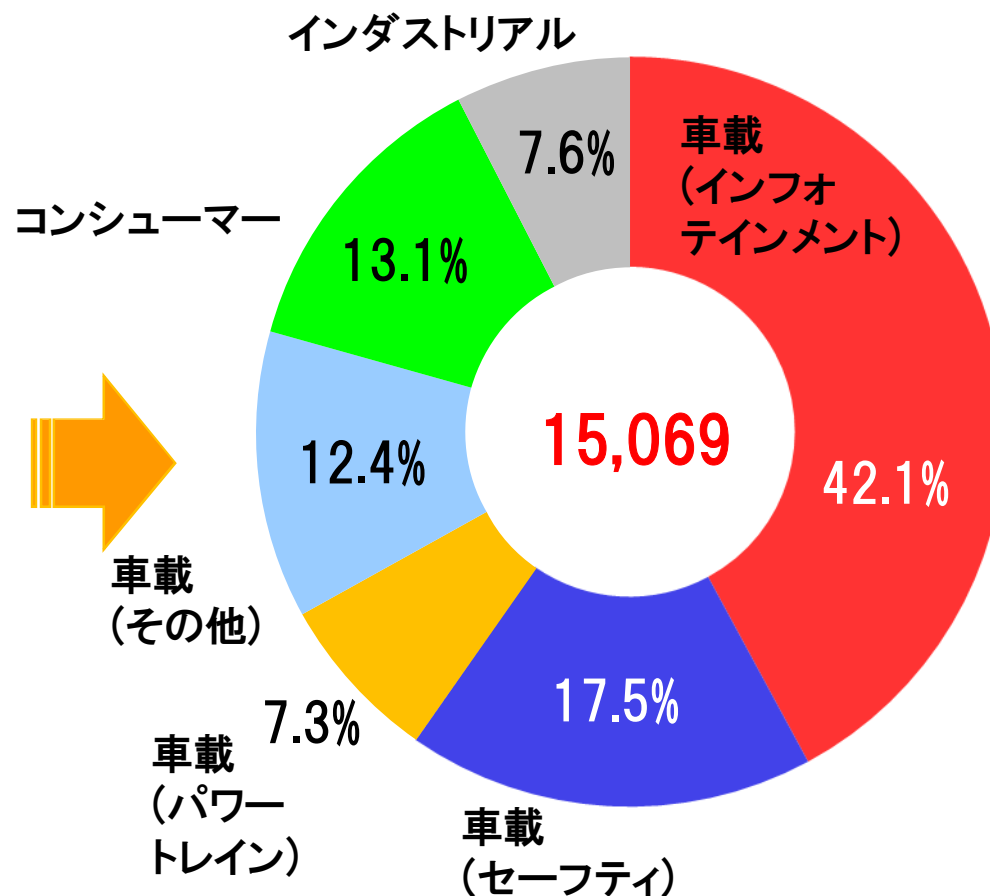
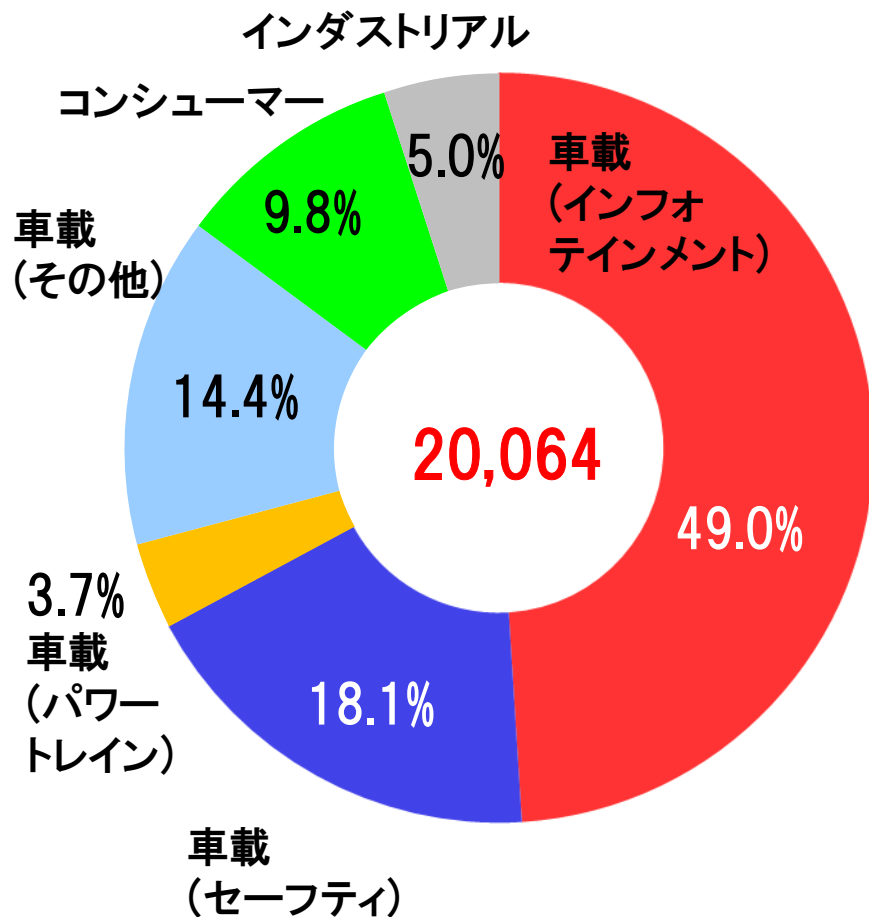
4. 市場別売上高構成比推移(前年同期比)



単位:百万円

20.3期第2四半期 累計

21.3期第2四半期 累計

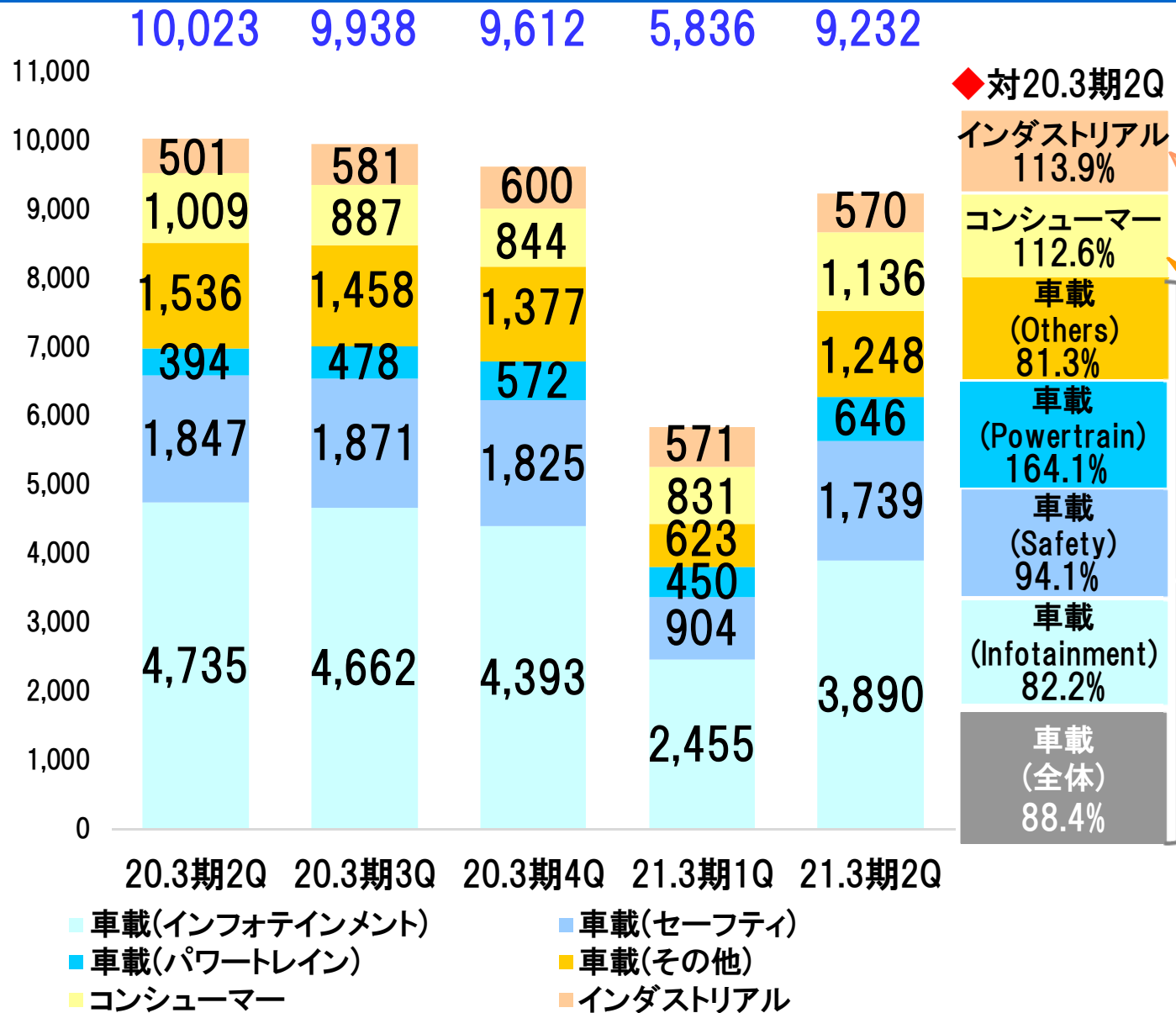




5. 市場別売上高(四半期推移)



単位:百万円



◆対20.3期2Q

- インダストリアル 113.9%
- 消費者 112.6%
- 車載 (Others) 81.3%
- 車載 (Powertrain) 164.1%
- 車載 (Safety) 94.1%
- 車載 (Infotainment) 82.2%
- 車載 (全体) 88.4%

・新型コロナ禍で欧米企業でのFA関連機器の生産停止に伴い、日系企業が生産を増加したことから増加

・ゲーム機向け、テレビ向けで増加

・新型コロナウイルスの影響で前年同期比では減少したが、生産活動再開に伴い1Q比では大幅増。

・セーフティ分野は1Q比で約2倍増加。カメラ向けは前年同期比も増加。

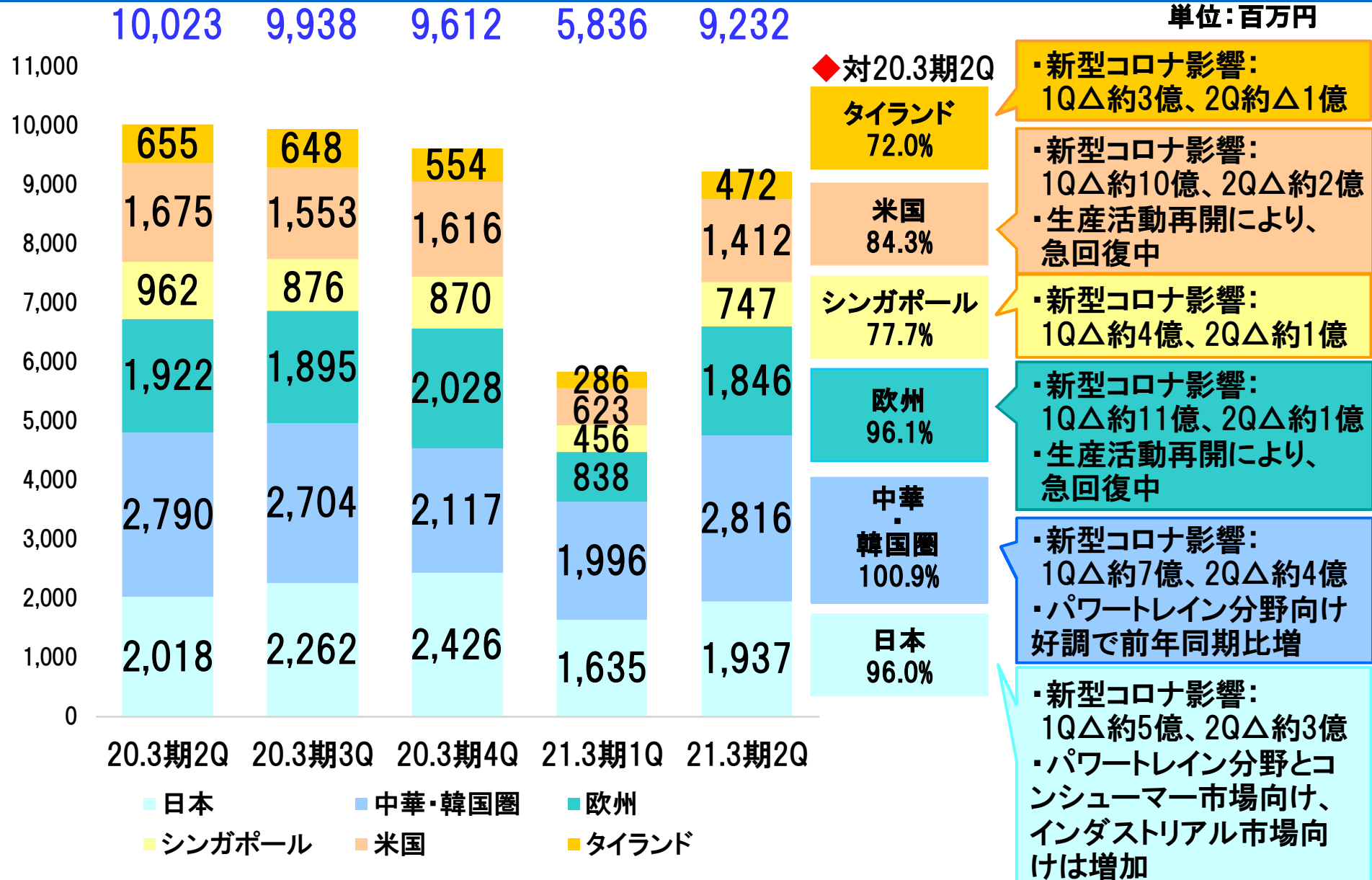
・パワートレイン分野は環境対応車の普及に伴い、バッテリー関連や外部給電用のインバーター向けで増加



6. 地域別売上高(四半期推移)



単位：百万円

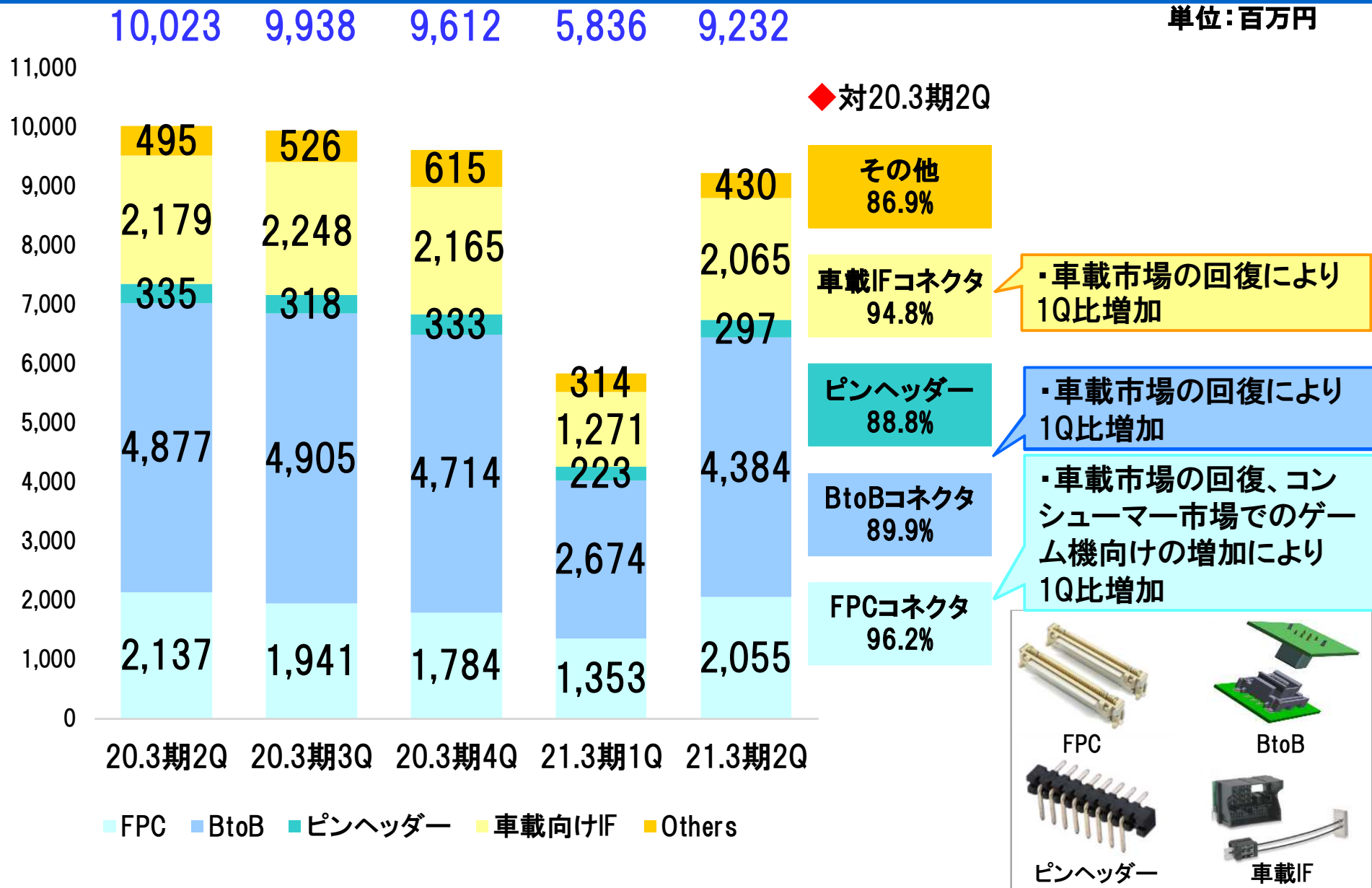




7. 製品別売上高(四半期推移)



単位:百万円



8. 損益計算書(連結)(前年同期比)



単位:百万円

	20.3期 第2四半期累計		21.3期 第2四半期累計		前年同期比	
売上高	20,064	100.0%	15,069	100.0%	△4,994	75.1%
売上原価	13,411	66.8%	11,000	73.0%	△2,410	82.0%
売上総利益	6,652	33.2%	4,069	27.0%	△2,583	61.2%
販売管理費	4,271	21.3%	3,895	25.9%	△375	91.2%
営業利益	2,381	11.9%	173	1.2%	△2,208	7.3%
営業外収益	61	0.3%	80	0.5%	19	131.2%
営業外費用	83	0.4%	177	1.2%	93	212.2%
経常利益	2,359	11.8%	76	0.5%	△2,283	3.3%
特別損益	△31	△0.2%	△45	△0.3%	△13	143.3%
税前利益	2,328	11.6%	31	0.2%	△2,296	1.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,670	8.3%	8	0.1%	△1,662	0.5%
E P S	70.88円		0.35円		-	
為替レート	108.99円/		106.68円/		△2.31円/	
(ドル/ユーロ/元)	121.42円/15.75円		121.36円/15.21円		△0.06円/△0.54円	



9. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位:百万円

	20.3期		21.3期 第2四半期		前期末比	要因
流動資産	32,395	53.4%	30,137	51.8%	△2,258	現金及び預金△1,247 受取手形及び売掛金△493
固定資産	28,242	46.6%	28,055	48.2%	△187	有形固定資産△286
資産合計	60,638	100.0%	58,192	100.0%	△2,445	
流動負債	7,928	13.1%	6,731	11.6%	△1,196	支払手形及び買掛金△526 未払金△580
固定負債	1,190	2.0%	1,212	2.1%	21	
負債合計	9,118	15.0%	7,943	13.7%	△1,174	
株主資本	51,217	84.5%	50,043	86.0%	△1,174	利益剰余金△1,175
その他の 包括利益累計額	△15	- %	△132	△0.2 %	△116	
非支配株主持分	317	0.5%	337	0.6%	20	
純資産合計	51,519	85.0%	50,248	86.3%	△1,270	1株純資産 2117.86 円 (前期末 2,172.66円)
負債・純資産 合計	60,638	100.0%	58,192	100.0%	△2,445	

10. キャッシュフロー計算書(連結) (前年同期比)



単位:百万円

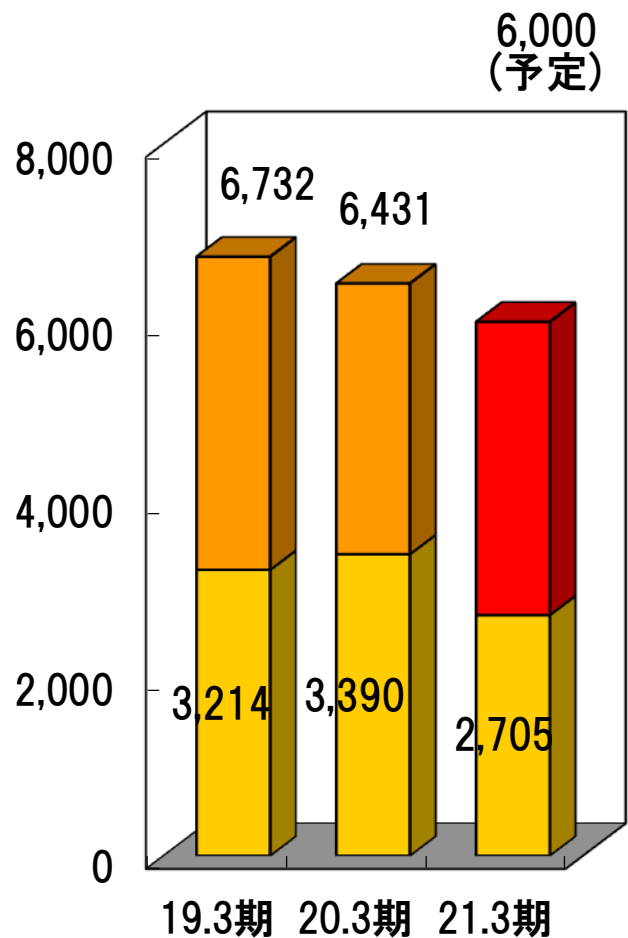
	20.3期 第2四半期	21.3期 第2四半期	増減
営業キャッシュフロー	2,747	2,852	105
税金等調整前四半期純利益	2,328	31	△2,296
売上債権増減(△は増加)	19	511	492
仕入債務増減(△は減少)	△23	△514	△490
投資キャッシュフロー	△3,391	△2,720	671
有形固定資産の取得	△3,342	△2,670	671
無形固定資産の取得	△47	△34	12
財務キャッシュフロー	△1,539	△1,295	244
配当金の支払い額	△1,419	△1,183	235
自己株式の取得による支出	△0	△0	△0
現金及び現金同等物に係る換算差額	△339	△84	254
現金及び現金同等物の増減	△2,523	△1,247	1,275
現金及び現金同等物の期首残高	15,456	13,819	△1,637
現金及び現金同等物期末残	12,933	12,571	△361



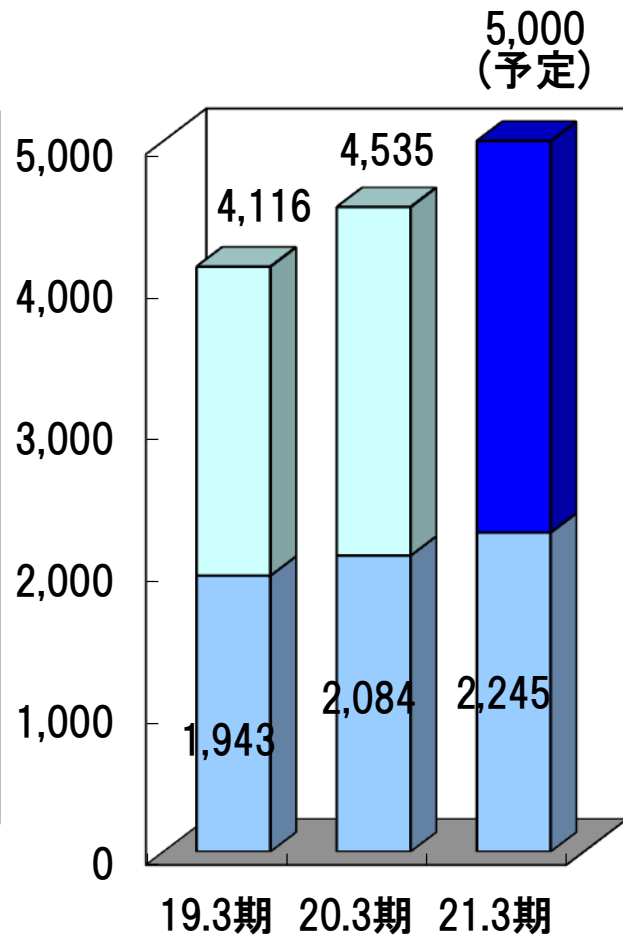
11. 設備投資・減価償却・研究開発



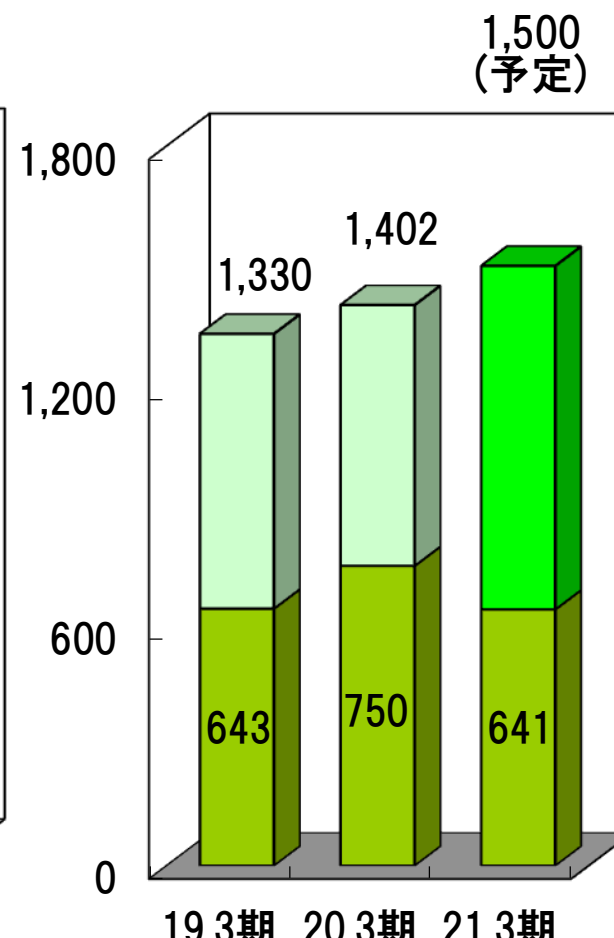
単位：百万円



設備投資



減価償却



研究開発

注：各グラフの数値は、下段に第2四半期累計の実績、上位に通期での実績(21.3期は予定)を記載

12. トピックス: 高速伝送対応コネクタ開発①

■ 開発シリーズとターゲット市場

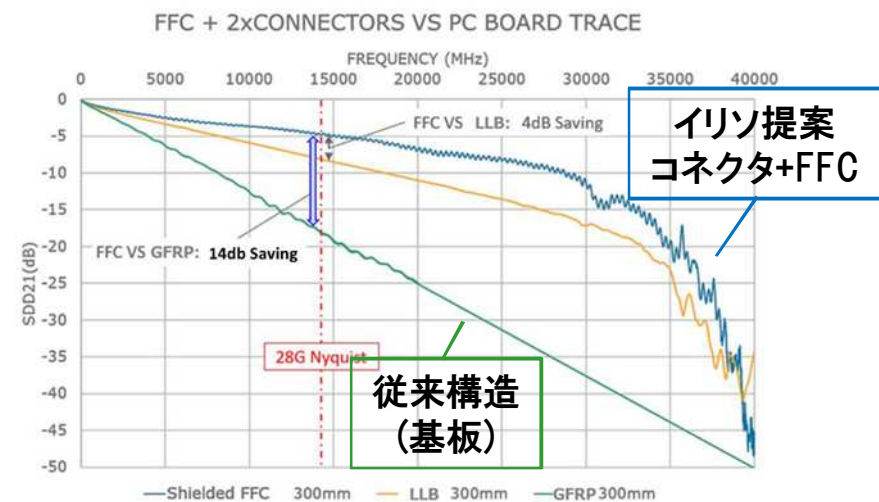
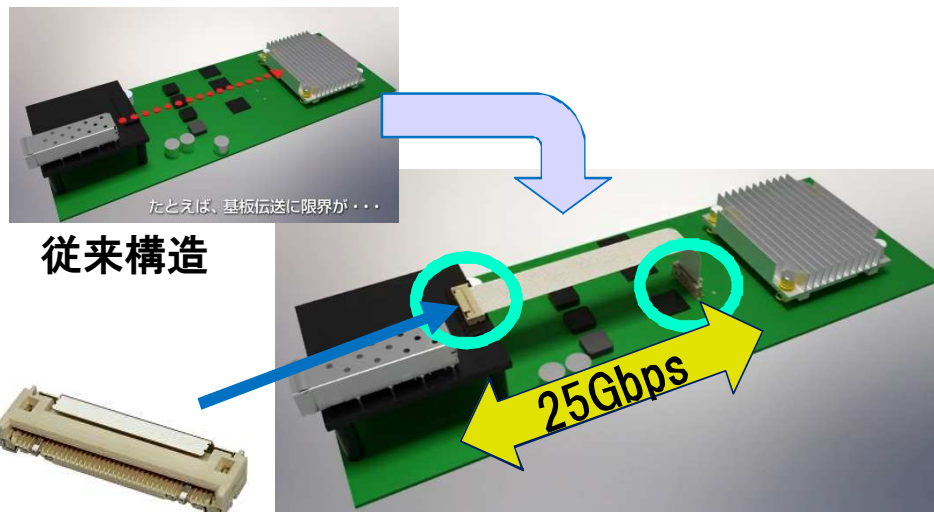
「25Gbps対応 Auto I-Lock™ FPC/FFCコネクタ」: 11503シリーズ

→ **イリソの強み「Auto I-Lock™」に高速伝送対応を掛け合わせた差別化製品。**
5G基地局、サーバーなどの機器に必要な高速伝送路の確保を実現します。

注: Auto I-Lock™: FPC/FFCカード挿入と同時にロックがかかる独自の抜け防止構造

■ イリソが提供するソリューション

5G通信用の基板では25Gbpsの高速伝送が必要となります。
基板パターンでの伝送ではこの仕様を満たすことが難しいため、
イリソでは、この課題へのソリューションを、自動組立への対応で非常に好評な
Auto I-Lock™ +FFCで実現し、お客さまにご提案を開始、大きな反響をいただいております。



基板より優れた伝送特性(線が上にあるほど良好)

13. トピックス: 高速伝送対応コネクタ開発②

■ 開発シリーズとターゲット市場

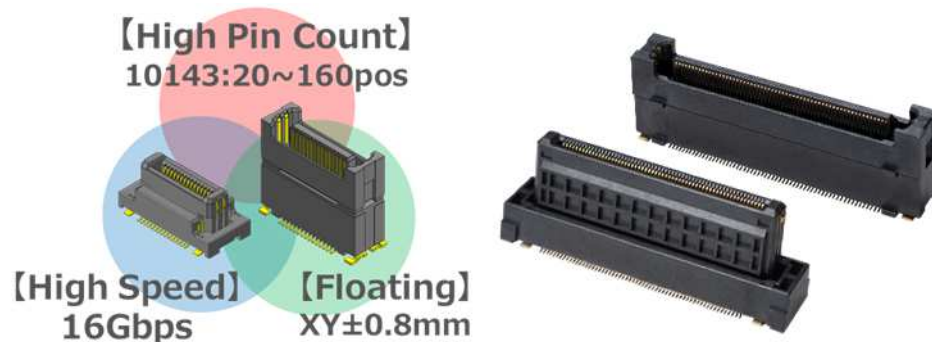
「16Gbps対応 電源用端子つき可動BtoBコネクタ」: 10143シリーズ

→ **イリソの強み「可動」に高速伝送対応を掛け合わせた差別化製品。**
車載機器、産業機器、5G基地局などの機器で基板間高速伝送を実現します。

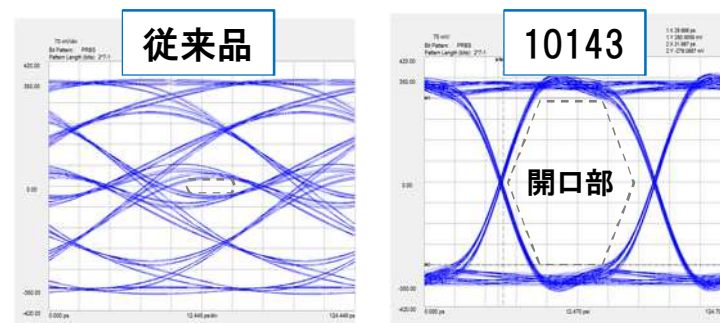
■ イリソが提供するソリューション

自動車の進化に伴ったADASの導入や多機能化に伴い、車載機器においても高速伝送対応が求められるようになってきました。

イリソでは、この要求に対応すべく、可動機構と高速伝送を両立させる検討を続け、16Gbpsの高速伝送とx,y±0.8mmという大きな可動量を併せ持つ、世界初の可動BtoBコネクタの開発に成功しました。このコネクタは電源端子も備えており、基板の小型化にも貢献いたします。可動機構による高接続信頼性と、これまでにない高速伝送対応は、自動車用途のみならず、産業機器分野、通信機器分野からも大きな反響をいただいております。



10143シリーズの特長と製品写真



従来品と比較し優れた伝送特性

(16Gbpsアイパターン:開口部が大きいほど良好)



I . 2021.3期 第2四半期連結決算概要

 II . 2021.3期 連結決算見通しと取り組み



1. 2021年3月期 修正計画



単位:百万円

- ・欧州を始めとして新型コロナウイルス感染の再拡大懸念で予断を許さないものの、当初想定より市場が急速に回復しており、上方修正いたします。
- ・原価低減と徹底したコスト削減により、収益性は営業利益率が上期1.2%に対して下期13.0%と大幅改善の見通し。

	20.3期 実績	21.3期 期初計画	21.3期 修正計画
売上高	39,614	34,000	34,500
営業利益	4,628 (11.7%)	1,400 (4.1%)	2,700 (7.8%)
経常利益	4,668 (11.8%)	1,400 (4.1%)	2,600 (7.5%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,287 (8.3%)	1,100 (3.2%)	1,800 (5.2%)
EPS	139.49円	46.68円	76.38円
為替	ドル109.10円 ユーロ121.13円 元 15.66円	ドル108.00円 ユーロ120.00円 元 15.80円	ドル108.00円 ユーロ120.00円 元 15.80円



2. 下期及び来期以降に向けての取り組み



■市場動向・・・新型コロナ感染再拡大は予断を許さない状況

- ・車載市場は順調に回復が継続。
- ・電動化への完成車メーカー/部品メーカーの取り組みは想定より旺盛。
- ・コンシューマー市場においては、ゲーム機向けとテレビ向けが増加見込み。

■イリソの取り組み

- ・2020年8月に開示した新中期経営計画のテーマである、
 - ①「コロナの影響を乗り越え、成長軌道に戻す」
 - ②「長期ビジョン(売上高1,000億円)達成の足掛かりを作る」を達成すべく、活動中。
- ・特に、注力しているパワートレイン分野は、電動化の動きとともにグローバルで案件が順調に積み上がり中。“Z-Move[®]”と振動シミュレーションサービスを組み合わせた「耐振ソリューションサービス」を核とした営業活動で徹底拡販。
- ・売上500億円まで対応できる体制は、生産面含めてすでに整っているため大きな投資は必要ないが、原価低減のための合理化投資及び将来の売上のための新製品開発投資は積極的に実施。

- ・コロナの影響を乗り越え、**成長軌道に戻す**
- ・長期ビジョン達成の足掛かりを作る3年間
(2024年3月期 売上高500億円突破)

販売強化

① 戦略的セグメンテーション+グローバル強化

② 車載市場(PA25領域)の強力推進

注:PA25:安全系、パワートレイン系、モーター、インフォテインメント、2輪の5アプリケーション

③ 第二の柱・インダストリアル市場の早期確立
(5G・ロボット)

基盤強化

④ フローティングを核とした技術開発力の強化

⑤ 生産力、コスト力、品質力の強化

⑥ 経営インフラの強化

① 戦略的セグメンテーション+グローバル強化

- ・市場セグメントを定め、各々の戦略に基づいて攻略
- ・海外営業体制を強化・サポート
- ・業界No.1スピードのワンストップ対応

イリソ	既存技術・既存市場	新技術・新市場
新領域	<p>差別化・カスタム商品で 奪取</p> <p>インダストリアル その他車載</p>	<p>攻める 新アプリケーション 顧客・市場ニーズの先取り</p> <p>PA25 Robot AI 5G</p>
既存領域の活用	<p>付加価値・コスト力で 守る</p> <p>コンシューマー インダストリアル その他車載</p>	<p>強みを活かし伸ばす 新アプリケーション 顧客・市場ニーズの先取り</p> <p>PA25 Robot AI 5G</p>

② 車載市場(PA25領域)の強力推進

◆伸長するPA25領域に対し一層の拡販強化

・パワートレイン ・セーフティ ・インフォテインメント

耐振ソリューション提供
(シミュレーション+ Z-Move[®])

高速伝送コネクタ

③ 第二の柱・インダストリアル市場の早期確立 (5G・ロボット)

◆5G・IoT等 新たな市場ニーズに応える新製品の開発と攻勢

◆産機のグローバルビック顧客に対するカバレッジ強化

◆顧客・市場の特性に応じた販売チャネルの多様化

グローバル強化・業界No.1スピードのワンストップ対応

④ 技術開発力の強化

◆フローティングテクノロジーの進化による革新的接続を実現

- 業界No.1・Only One製品の開発
・顧客に業界No.1スピードのワンストップ対応

■ 付加価値を創造する商品開発

- ① 高速伝送化
- ② 高電流/高電圧化
- ③ 軽量/小型化
- ④ 多極化
- ⑤ 自動組立化
- ⑥ インターフェース製品の強化

顧客ニーズを先取りした、
先進技術製品を活用した
ソリューション提案

⑤ 生産力、コスト力、品質力の強化

◆生産プロセス強化

- ①設備・金型の標準化推進
- ②部材の現調化と地産地消生産の促進
 - ・メキシコ工場は、市況を見つつ建設準備

◆コスト力強化、生産性向上

- ①スマートファクトリーの強力推進
- ②設計の標準化を含む原価低減への弛まぬ取組み
- ③生産リードタイム短縮、開発TATの削減(目標30%短縮)

◆品質の向上

- ①サプライヤーの管理・品質保証体制の充実
- ②クリーンリネスの追求による製品付着異物の削減と管理

⑥ 経営インフラの強化

◆基幹システムの刷新

- ①BPRとグローバルシステム構築の同時推進

◆ESGの拡充

- ①2030年のゼロエミッションに向けた取り組み
 - ・21年3月期、太陽光発電設備の設置工事開始(南通工場)
- ②多様な人財の活用と人財育成
- ③ガバナンス強化
 - ・レジリエンス経営への取り組み
(コロナ禍を踏まえたBCP対応力強化等)

会 社 名	:	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	:	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	:	1966年12月
社 員 数	:	3,370名(2020年3月31日現在)
資 本 金	:	5,640百万円(2020年3月31日現在)
本 社	:	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	:	
国 内		本社、福島県、茨城県、愛知県、大阪府
海 外		シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、 台湾、インド
研 究 開 発	:	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、上海R&Dセンター
工 場	:	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

コネクタの種類

基板対基板コネクタ (BtoBコネクタ)

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ(ボードtoボードコネクタ)とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B (ビー・ツー・ビー)は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板(Flexible printed circuits)やFFCケーブル(Flexible flat cable)の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF(Zero insertion Force)タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O(インプット/アウトプット)コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面(裏・表面)に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン(電導体)”をハウジング(樹脂材でできた絶縁体)で支えたプラグ(オス側)コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続(基板間接続)に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

決算に関してご質問がある方は、下記当社HPのIRお問い合わせフォームからご連絡ください。

- ・受付先：当社HP内IRお問い合わせフォーム
- ・URL：<https://www.iriso.co.jp/jp/contact/ir/>
- ・期日：2020年11月13日(金)

いただいたご質問の回答は、後日まとめて当社HPに掲載予定です。

※ご質問によっては、会社情報の適時開示等に関する規則やお客様との守秘義務契約等が理由でお答えできない場合もございます。予めご了解ください。

※決算説明動画を2020年11月9日に当社HPに掲載予定です。そちらも併せてご覧ください。